

4.14 習志野 生産方式に突入

一方的、大望側(生産工学部、大塚反動学部長)の4.14より始まる生産1年の連続試験に抗議して結果した斗争習志野の学友に対して不当にも、津田沼生産工士会の助手40名をはじめとした反動教員右翼学生(干代工友他干代県下の右翼産れ学生)を日当1700円で学内に入れ、習志野キャンパス内で集会を開かせず、正内での検閲制を復活し、共斗の学生を全く閉ざす。また、これは全く津田沼・生産工学部方式でしかないことも確認しなくてはならない。また4.14の状況がエスエムトシタ形で単行強化、右翼のクラス会への介入、ビラ、集会の全面的禁止等抗議のたれをたれらうことに注視しなくてはならない。また同時に、単に現象面だけをけにとらわれず、ゆえ斗争が泥沼化しているかと論を産めなくてはならない。76年以前には日本帝国主義的国内再編の第一環として学生弾圧(宇野富答申中商議のあり、日帝の先兵として日田・大塚・堺等の反動が台頭してくるという)ことを確認しなくてはならない。

右翼の一元支配を許すな!!
立て!! 習志野学友諸君!!